

令和4年度第1回岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画懇談会 議事要旨

- 1 開催日時 令和4年7月21日（木） 午後2時00分～午後3時00分
- 2 開催方法 オンライン
- 3 委員

区分	氏名	所属・役職
学識経験者	うえみや 上宮 成之	岐阜大学 学術研究・産学官連携推進本部 高等研究院 地方創生エネルギーシステム研究センター 副センター長
	かじかわ 梶川 千賀子	岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程 応用植物科学コース 農業経済学研究室 教授
	きしだ 岸田 修一	一般社団法人 省エネルギーセンター 東海支部 参事役
	こやま 小山 真紀	岐阜大学 流域圏科学研究センター 地域協働推進室 准教授
	すぎやま 杉山 のりこ	名古屋大学大学院 環境学研究科附属 持続的共発展教育研究センター 特任准教授
	ののむら 野々村 修一	放送大学 岐阜学習センター 所長 岐阜大学 特任教授
	はらだ 原田 もりひろ	岐阜大学 流域圏科学研究センター 水系安全研究部門 准教授 地域環境変動適応研究センター センター長
	むらおか 村岡 ひろゆき	岐阜大学 流域圏科学研究センター 森林機能研究部門 教授 脱炭素・環境エネルギー研究連携支援センター センター長
事業者	いけど 池戸 わたる	生活協同組合コープぎふ 執行役員
	おざき 尾崎 やすのり	株式会社エスラインギフ 輸送・安全・品証・環境部 次長
	さかきま 榎間 もとひろ	中部電力パワーグリッド株式会社 総務部 総務・広報グループ（管理） 課長
	むらくも 村雲 よしひで	東白川村森林組合 代表理事組合長
	やぎ 八木 たけし	イビデン株式会社 生産推進本部 GX推進部 部長
地球温暖化防止活動推進センター	みぞぐち 溝口 ともこ	岐阜県地球温暖化防止活動推進センター 事務局長
県民	こうの 河野 みさこ	岐阜市女性の会連絡協議会 会長
市町村	ののむら 野々村 せいこ	岐阜市 環境部 低炭素・資源循環課 課長

委員 ※区分毎に、50音順に掲載、敬称略

< 事務局及び関係課一覧 >

所属・役職		氏名
岐阜県環境生活部	次長	藤田 宏志
岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課	課長	吉川 尚文
岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課	温暖化・気候変動対策 監	川口 晶子
岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課	温暖化・気候変動対策係 課長補佐兼係長	正村 弘毅
岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課	温暖化・気候変動対策係 主任技師	松浦 絵美
岐阜県環境生活部脱炭素社会推進課	企画係 主任	浅野 尚宏

	部 局	所 属
関係課 (オブザーバー)	総務部	財政課
	清流の国推進部	清流の国づくり政策課、SDG s 推進課
	危機管理部	危機管理政策課
	環境生活部	環境生活政策課、廃棄物対策課
	県民文化局	文化創造課
	健康福祉部	健康福祉政策課
	子ども・女性局	男女共同参画・女性の活躍推進課
	商工労働部	商工・エネルギー政策課
	観光国際局	観光企画課
	農政部	農政課、農地整備課
	林政部	林政課、森林活用推進課、県産材流通課、 森林経営課
	県土整備部	建設政策課
	都市建築部	都市政策課、住宅課
	都市公園整備局	都市公園課、公共交通課
	(教育委員会)	教育総務課
(警察)	総務課	

4 議題

(1) 岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画について 【資料1】【資料2】

- ① 現行計画の目標に対する進捗状況
- ② 現行計画の体系（部門）と重点9分野の比較
- ③ 関係団体（重点9分野）及び市町村からの意見聴取の概要
- ④ 国気候変動適応計画改訂への対応について

(2) 岐阜県温室効果ガス排出抑制率先実行計画について

岐阜県温室効果ガス排出抑制率先実行計画 令和3年度実績報告【資料3】

配付資料

次第・出席者名簿

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 資料1 | 岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画について |
| 資料2 | 国気候変動適応計画改訂への対応について |
| 資料3 | 岐阜県温室効果ガス排出抑制率先実行計画 令和3年度実績報告 |
| 資料4 | 岐阜県温室効果ガス排出削減計画等評価制度の実施状況 |
| 資料5 | 地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律の概要 |
| 参考資料1 | 国地球温暖化対策計画・県エネルギービジョン（概要） |
| 参考資料2 | 岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画 令和3年度報告書 |
| 参考資料3 | 岐阜県における温室効果ガス排出量・吸収量の算定方法 |
| 参考資料4 | 温室効果ガス排出量の削減についての意見聴取結果一覧 |
| 参考資料5 | 今後のスケジュール（案） |

【議事要旨】

議題 1

(事務局)

資料により説明

議題 2

(事務局)

資料により説明

(委員)

- ・資料 1 の全体の削減目標では、目標達成できると赤線で矢印が書かれているが、2013～2014 年に大きく減少した後は 2013 年～2014 年に比べるとゆるやかな減少になっている。最初は削減可能だがだんだん厳しくなると思う。
- ・安易にまっすぐ引いていいものかというところから削減目標は問題ないが、内訳については真剣に考える必要があると思う。

(委員)

- ・私も同じような考えを持った。破線でまっすぐ下げてもこれから先 2020 年、2021 年にコロナの対応もあるためこのように直線的に下がっていくことはないと思う。もう少し具体的に検討する余地は残されていると思う。
- ・(対策については) 削減ばかりのため、吸収源の対応についても考えていく必要があると思う。
- ・再生可能エネルギーに関する施設整備について、生物多様性に関して問題点が見られるようになってきていることから、生物多様性に対してはある程度配慮が必要と思う。

(委員)

- ・私も同じような印象を持った。2019 年までのデータしかないため難しい部分もあるが、2030 年まで線を引くときにこのようにすると見栄えはいいが、適宜ステアリング（舵取り）をしていく必要があると感じた。
- ・昨今のエネルギー価格の高騰や電力に係る再生可能エネルギーの導入に関して新電力事業者が非常に苦勞している状況から電力の調達に問題が生じている。こういったことも今後気にしていけないといけない。

(委員)

- ・最初のお二方と基本的に同じで直線で引くのは適切ではないのではないかと。これまでも言われていたことなのに、なぜ同じ説明のままなのかが疑問である。どうしていかないといけないか考えるのであれば、2 年たっても同じ説明ではなく、なぜこういう状況になると言えるのか。
- ・下げやすいものの対策がなされ、下げ止まりのような状況になることが想定される。何をすれば下がるのかというところと、計画の促進で下げられるところ（下げるよう取り組むところ）の関係を見える化しておいた方が良くと思う。

(委員)

- ・資料1で示されている点線の直線がよくないという意見が出ているが、私はそうは思っていない。点線で示されているのはトレンドである。これまでのデータからトレンドを参考で示しているだけであり、これだけで将来予測をしているわけではないと思う。
- ・この直線に従ってこのまま未来が進んでいくわけではないため、それに甘んじることがないように、さらに点線を下回るような政策を打って出なければいけないと思う。
- ・一方でトレンドでも実現できない運輸部門などについてはもっと大胆な施策をしていかなければならないと思う。
- ・正確な将来予測をするには、細かいシミュレーションをしないといけないため、専門的な研究機関で行う必要があるかもしれない。コロナなどの社会現象の予測はわからないため、正確な将来予測は求められていないのではないかと思う。

(委員)

- ・国の気候変動適応計画の改訂で定量目標、KPIを定めることとしており、それについては県庁の各部局で議論していただきたい。
- ・もう一つ取り入れていただきたいのが、岐阜県気候変動適応センターで県・大学・地域の当事者の方々による調査・研究がこの2年間で進んでいる。県民の方々が興味のある部分では、影響評価や、具体的な適応策があるのかということ。そういったものをなるべく計画に記載したり、県民に普及啓発したりといった取組みを強化してほしい。
- ・エネルギー価格がかなり高騰しており、岐阜大学の電気代も2倍~3倍に上がっている。エネルギーの調達といった社会全体の動向も注視しながら計画を議論していく必要があるのではないか。

(委員)

- ・委員の皆さんが言われているように直線トレンドが気になった。杉山先生も言われていたが、この直線トレンドで予測した削減目標をいかに実現するかが重要であり、早急に施策、対策を立てることが必要である。
- ・森林吸収量の算定方法変更の説明があったが、どのように変更して算定方法の変更によりどの程度吸収量の算定結果が変わったのか。今後、2050年を考えた場合に、従来の算定方法のまま30年後の吸収量を推定できるのか、温暖化、気候変動が進んだ場合に今ある算定方法で大丈夫なのかが気になった。
- ・森林、林業のことを絡めて、岐阜県の森林づくり基本計画や県産材利用に関する条例等の他の政策の相乗効果をもってどう実現するか横断的に検討してほしい。
- ・再エネのインフラを山地に作る時に景観の問題がある。参考資料4に市町村の意見として、住民からインフラが見えるか見えないかによって対策が異なるのではとあったが、見えない場所であっても土砂災害防止や、生物多様性保全の問題等も併せて検討してほしい。
- ・削減目標の算定の際に、温暖化の進行(猛暑日の増加)に伴う電力需要の増加の可能性も考慮することも重要と考える。
- ・コロナ禍の影響としては世界的には一時的にCO2排出量が減少したが、その後すぐ

に元のペースに戻りつつあるというデータがすでに出ている。

(委員)

- ・2030年度の温室効果ガス削減目標について46%以上とあるが、もっと上積みをしたような形で県には頑張ってもらいたい。
- ・県へのお願いとして、我々は運輸部門ではないが車を多く所有しており、車から出る排出量がなかなか削減できなくて困っている。県で対策を取れば全体として進むのではないかと。

(委員)

- ・CO₂排出量を毎年測定している。削減自体はできているが、要因としては物量が少ないため車の稼働も少なくなり排出量が少なくなったという要素が多量にある。
- ・EV車両を導入しているがメリットは実感できていない。技術的にも相当の進歩、進化がないと削減には結びつかないのではないかと。特に運輸部門では小さい企業体がいる中で、CO₂削減や温室効果ガスの対応を取れるかという点で体力的に厳しい面がある。

(委員)

- ・削減目標に関して、トレンドから示されたものであるため、目安としては有効であるが状況は変化するため、都度の見直しは必要である。
- ・現に電力を取り巻く環境も大きく変化している。
- ・弊社においても脱炭素の取組みを継続的に実施している。
また今後、制度見直しにより、太陽光発電など送電線に接続しやすい環境が整えられていくと認識している。

(委員)

- ・県でももう少し吸収に関してアピールしてほしい。
- ・コロナやロシア、ウクライナ問題の関係で（当社からの木材の輸出について）非常に堅調に進んでいるような状態である。
- ・バイオマス発電が進んでいるため、来年からますます岐阜県でも材料が必要になっていくような状況である。

(委員)

- ・2030年度の削減目標について46%以上の高みを狙うということではいいと思う。弊社も同じように目標を掲げている。
- ・グラフの見せ方については大きく問題はないと思うが、2025年くらいの中期の目標を一旦実行レベルで立てて記載できれば、アプローチ、施策等が並行して見えてくるのではないかと。

(委員)

- ・削減量について2011年～2019年でトレンド式を立てると下がり率が大きいので、こうなるのは当然だと思う。
- ・他市町でも2019年からの3年で変化があると予想しており、慎重に扱っている。

もう少し短いスパンでの予測を立てつつ目標に進んだ方が良いのではないか。

- ・重点9分野の「普及啓発・県民運動」分野は漠然として難しい分野だが、皆さんと一緒に頑張りたい。
- ・県庁が「岐阜県温室効果ガス排出抑制率先実行計画」について、目標や数字を出すと、他市町で参考にして実行計画を検討しているため、高い目標を立てることは良いと思う。

(委員)

- ・他の委員の意見と同じ意見のため、特段意見無し。

(委員)

- ・岐阜市でも今年度、温暖化対策の計画改定と気候変動適応の計画策定を進めており、岐阜県の計画との連携が大切となる。
- ・温暖化への対策は、1市だけでは難しいところがあり、連携をしながら進めていきたいと考えているため、県の計画を参考にしたい。

(委員)

- ・コロナの3年間からは今後急速に立ち上がる可能性があるため、県で情報収集し、分析をしていただきたい。